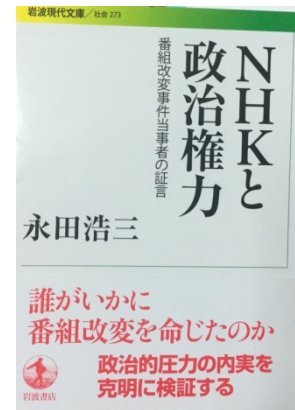


NHK と政治権力

フェイスブックは多様な情報をすぐさま手に入れられるだけでなく、情報発信でき、多くの人と「つながり」をもてる。そんな「つながり」が1年ほど前からできた一人が、長らく NHK に勤めたジャーナリストで、現在は武蔵大学教授の永田浩三さんだ。永田さんの投稿から、ジャーナリスとしての鋭いコメント、大学での学生への細やかな指導、それに温かい人間味に触れることができる。

その永田さんが2014年に刊行したのが、「番組改変事件当事者の証言」という副題の書だ。表紙裏から一政権党の有力政治家とNHK最高幹部が放送直前に接触し、慰安婦問題を扱った番組は著しく改変されてしまった。裁判の場でも争われ、多くの人々の関心を集めた2001年の事件の真相について、担当プロデューサーが沈黙を破って全過程を明らかにした。放送現場での葛藤、政権党と癒着するNHK幹部の姿勢を克明に記した本書は、NHK番組改変事件を知る上で最良の一冊である。関連資料収録。



この書を手にしたのは、先にレポートした3日の「つどい」での岸井成格さんの言葉からだ。安倍さんはNHK番組改変事件から学んだのではないか。岸井さんは自らのTBS「NEWS23」での生々しい体験を踏まえ、この事件を語った。安倍政権の巧妙かつ執拗なメディア攻撃を考えるうえで、この事件をもっと知りたくなった。事件についていろいろ読んできたが、この本は、当事者ならではの証言が続き、やはり事件を知るうえで最良の一冊だ。永田さんは自分の「弱さ」「誤り」を率直に認めつつ、事件の全容を克明につづる。事件の詳細な「記録」にとどまらず、永田さんの人間像を示す感動の書だ。

紹介したいことは多いが、ここだけでも書いておきたい。

(松尾武・放送総局長は)安倍晋三氏から、「勘ぐれ、お前」と言われたと語ったとされています。この言葉は、のちに安倍氏は否定していますが、勘ぐれというのは、まさに忖度という言葉と、表裏の関係にあります。しかし、どうなのでしょう。たしかにNHK自身の自己検閲は情けないことではあります。しかし、NHKだけを責めることは、少し酷な気もしてきます。具体的な指示はなかったとしても、あきらかに脅しをかけられたことが、推察されるからです。

放送倫理・番組向上機構(BPO)「意見」の最後から一過去を検証し、そこから学んだことを現在に活かすことは、未来を作ることである。

(2016年11月11日)